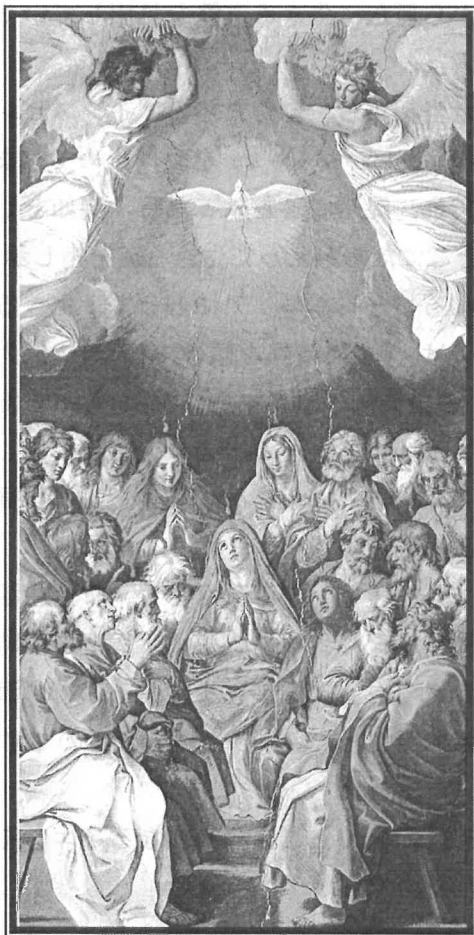


2007年(平成19) 5月

カルメル
靈性センターニュース



レニ「聖霊降臨」

〒611 京都府宇治市本郷御堂山20-12
宇治聖テレジア修道院(黙想)

TEL 0774-32-7016
FAX 0774-32-7457

221号

「靈性の時代」

カルメル会 中川 博道

先日、「カルメル会の靈性が、現代にもたらすものは何か」というテーマで話をさせていただく機会をいただきました。あらためて、この時代に「カルメル会の靈性と使命とは何か」を自問することになりました。

世界が大きく変動していくことを肌で感じる時代に、靈性が叫ばれ始めました。常識や様々な前提が崩れ去っていく世界において、“人間や家族の本質” “キリスト者の本質” “教会の本質” “生きることの本質” などが根底から問い直される中で、「靈性=生きる神と出会うこと」が問われています。人々は今、神に直接出会うて何かを確かめ、そこから新たに生きる道筋を見出していく必要を感じ取っているのだと思います。

カルメル会は創立された当初から、自分たちの“インスピレーションの源”として、預言者聖エリア (cf.列王記上 17章~19章) を受け止めてきました。エリアは、王国が真実の神「主」を忘れ、混迷に落ち込んだ時、突如として現れ、生きる神の現存と、イスラエルがそこにたちかえって生きる道を指し示します。「イスラエルの神、主は生きておられる」と叫ぶエリアにとって、生きる神の前に留まることがすべてでした。エリアは、「主に情熱を傾けて仕え」、無力さに捕らわれ、ゆきづまった時には、“神との出会いの原点 (ホレブ山)” へとたちかえって行きます。神の山ホレブは“イスラエルと主との出会いの原点” でした。そこで、洞窟の中で、“静かにささやく神のみ声” を聴きました。そして、同じ主における仲間を得て、また自分の場へと派遣されていきます。

この姿は、現代においても靈性を生きる原点です。日常生活の中で、真実に働こうとする時、私たちも度々ゆきづまりを感じます。そんな時、私たちもイエスとの出会いの原点にたちかえることに招かれます。そして、洞窟、すなわちそれぞれの内面においてこのお方のもとに留まり、聴き入るのです。

マリア様もその不安と恐れの中で、ご自分の内なるイエスを思い巡らし、内なるお方に聴き入っていかれたのでした。

5月、マリア様の月、私たちはこの混迷の時代において、マリア様と共に靈性の道を歩むことに招かれています。

心の泉



泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

——現代の十字架の聖ヨハネ——

帰天40周年にあたって (6)



マリアは

わたしたちの希望

もっとも暗い夜に輝く星

試練のうちにあるすべての人

精神的な苦しみの中に沈んでいる人

無神論の闇に包まれている

すべての人々の上に

身をかがめ、見守ってくださる

——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

花々が咲きそろう五月、五月晴れのこの月は長いこと教会の伝統のなかで聖母月として親しまれてきました。聖母月にあたりマリー・エウジェンヌ神父のマリアに関する言葉を今月にご紹介しましょう。

すべてが失われたかのように思えるときも、マリアはいつもそこにおられる。母として夜の闇の中にも、失望の中にも、そこにおられ助けてくださる

この言葉の背後にはエウジェンヌ神父のマリアとの関わり、マリアが常に母としてわたしたちとともにいてくださっている信頼があります。五月の聖母月にまず聖母との関わりを基礎をしっかりと築きたいものです。常に子を見守る母・・・すべてが失われたかのように思えるとき、母はいつものようにそこにおられる。いいえ、子がすべてを失ったが故に、それまで以上に母として子の近くにいてくださる。夜の闇がすっぽり覆うとき、身近にいてくださる母マリア。

現代社会の中でわたしたちは常に「時間に追われて」生活していますが、聖母との関わりを深めるのに時間はそれほど問題になりません。忙しい生活の中でもできる事、短いアヴェ・マリアとか、子供が母と微笑みを交わすようなちょっとしたしぐさはいつの間にか母マリアとの関わりを深めているものです。

そして暗い夜に包まれるとき、そこに輝く星は希望の星マリア。荒ら波立つ人生の航海に進む道しるべとなってくださることでしょ。

マリアはわたしたちの希望、もっとも暗い夜に輝く星。試練のうちにあるすべての人、精神的な苦しみの中に沈んでいる人、無神論の闇に包まれているすべての人々の上に身をかがめ、見守ってくださる。

わたしたちがどのような状況にいようとマリアとの関わりは深められます。マリー・エウジェンヌ神父の言葉を思い出しましょう。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

断想（213） 若き日のノートより

奥村一郎

雨降りの夜、電車に乗ったとき、雨靴や、こうもりの水と泥とで、動きまわる綾模様の電車の床をみつめながら、その不思議な泥の模様に見いていたことがあった。誰も意識せずに、そのあやもようを靴で変化させては 出ていく人、集まってくる人がいた。

白床に、茶色の泥が大理石の縞もように花もようをつくる。それが、人々の足とともに動きまわる。

人生の歴史とはこんなものなのだろう、悲しくもある。足と土とでふみにじられてできる模様のように、美しくもある。土は不思議な現象をかぎりなく鮮やかにみせてくれる。

泥の中にこんな感動があるのなら、泥とともにかたまっているものの中にも、きっとこんな美しい心の模様が生きもののように動いているのだと思うと、そこに、キリストの顔がすいてみえてる。

固い信仰ではなく

みずみずしい信仰を与えて下さい

固まった信仰ではなく

やわらかな信仰を与えて下さい

強い信仰ではなく

弱々しく見えながら 生きた信仰を与えて下さい

幼子のように

遅しくなくとも

命にみちた信仰を与えて下さい

ヘンリ・ナーウエンの

『旅路の糧』

(99)



いやしをもたらす接触

触れること、そうです、接触は、無言の内に愛の言葉を語ります。赤ちゃんの時、私たちはたくさんの人に触れられましたが、大人になるとほんのわずかな人となります。けれども、友情においては、接触は言葉以上に私たちをはげましてくれるのです。友の手が私の背をなでる時、友の腕が私の肩にそっと置かれる時、友の指が私の涙をぬぐってくれる時、友の唇が私の額にキスする時、そこにはほんとうの慰めがあります。これらの接触の瞬間は、真に聖なるものです。それらの接触は私たちの疲れた心を回復してくれます。神や人と和解させてくれます。不安な心をやわらげてくれます。私たちの罪やミスを赦してくれます。傷ついた心をいやしてくれます。

イエスに触れたすべての人々と、イエスが触れたすべての人々はいやされました。神の愛と力が彼から出て行ったからです (cf. ルカ 6 : 19)。友が私たちを、所有欲のない自由な愛で触れる時、人の内に宿った神の愛が私たちに触れ、神の力が私たちをいやすのです。

(0325)

慰めを与え、慰めを受けること

「慰め(consolation)」とは、美しい言葉です。それは、「一人ぼっちの人と」(solus)「共にあること」(con)を意味します。慰めを与えることは、人を世話する上で最も大切な事柄の一つです。人生は苦しみや悲しみや孤独で満ち満ちているので、私たちが目にするとつもない苦しみをやわらげるために、しばしばどうしたらよいのか戸惑うほどです。私たちは慰めを与えることができますし、またそうしなければなりません。子供を失った母親を、エイズ患者の若者を、家を消失した家族を、傷を負った兵士を、自殺を考えているティーンエイジャーを、なぜ生きながらえねばならないのかと考えている老人を、私たちは慰めることができ、また慰めなければなりません。

慰めることは、苦しみを取り去ることではなく、むしろその人と共にそこにいて、こう言うことです。「あなたは一人ぼっちではないのですよ。私はあなたと一緒にいますよ。一緒にこの重荷を荷うことができるのですよ。こわがらないでください。私はここにいます」と。それが慰めです。私たちは皆、慰めを受け取ると共に、慰めを与える必要があるのです。

(0209)

『必要なことは、ただ一つだけ』(24)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

2. 燃料を補給すること

一日を満タンで始めましょう。朝食をとることで、その日と取り組むために必要なエネルギーが与えられます。規則正しく食事を取ること（このことは夕食を省かないということです）や食事を味わう時間をしっかりとすることは、あなたをゆったりとした感じにもさせてくれるでしょう。

果物や野菜、たんぱく質や穀物などで、しっかりと燃料を補給してください。これらの食べ物、その日乗り切る力をあなたに与えてくれるでしょう。

ソーダ水や糖分の多いスナック菓子や油っこいハンバーガーからちょっとしたエネルギーを取るようなことはしないように。そのエネルギーはほんのしばらく持ちますが、一旦切れると、かえってぐったりとし、いつもよりずっと疲れたように感じます。台所や学校や共同体や会社での仕事をやりぬくための特別なエネルギー補給としては、エネルギーがしっかりとつまったものを食べましょう。

3. 笑うこと

ある人は、笑いは最良の薬だと言います。そう、多くの場合、その通りです。あなたは、笑うために顔面の15の筋肉を必要とすることを知っていましたか。たくさん笑うことは、あなたを良い気分にしてくれ、笑いが止まった後でも、その気分はずっと残るのです。ですから、面白い映画や漫画を見ることによって、ジョークの本を読むことによって（新しいジョークも学べます）、自分自身でジョークを作ることによって、定期的に笑いの薬を取り、ストレスがたまるのを防いでください。笑いはあなたを新しい人間のように感じさせてくれるのです。

だれにも、何かほんとうに馬鹿げたこと、間のぬけたことをしてしまう日があります。パニックになる代わりに、大声で笑いましょう。完全な人は一人もいません。人生はまさにおかしなことで満ちています。だから、肩の力をぬきましょう。笑いはそれ自体として大切であり、私たちに対する効果としても大切です。それは、体全体が心と寛大に協働し、私たちの感覚のすべてが反応する活動です。笑いは、緊

密な協働、有機的な充足、幸せの分かち合いの時です。事態をほんの少し改善するために、笑いは伝染し、喜びの肉体的波動をすべての人に伝え、彼らとその幸せの瞬間に居合わせるようにするのは、こうして、あなたは自分と自分の緊張を忘れるのです。

4. 友と楽しむこと

あなたの好きな人々といえることは、常にあなたのストレスから逃れる良い方法となります。映画に行ったり、ゲームをしたり、一緒にぶらぶらし、話したりする仲間を作りなさい。友はあなたの問題を解決する手助けをしてくれ、物事の明るい面を見させてくれるのです。彼らと対話し議論することは、問題が生じた時に改善する方法やなすべき方法について教えてもらうことになるのです。

5. 信頼している人と分かち合うこと

心の内に押さえ込んだ感情を保持し続ける代わりに、あなたが信頼している人が尊敬している人に、あなたを悩ませている問題について話すように。それは、友だちであったり、両親であったり、家族の中のだれかであったり、先生であるかもしれません。あなたの問題をさらけ出し、それを違った観点から見るとは、それに対処する道を見出すために助けとなるでしょう。これだけは覚えておいて下さい。あなたはいつでも、何もかも独りでやる必要はないのです。

さらに、あなたが今まで経験したこのないすべての現実に向けてください。もしあなたが一度も戦闘の危険や牢獄の孤独や拷問の激痛や飢餓の苦しみを経験したことがないならば、あなたは世界中でそのような状況下にいる五百万の人々より恵まれているのです。もしあなたが攻撃や逮捕や拷問や死の恐れなしにモスクや寺院や教会で祈ることができるならば、世界中でそのような状況下にいる三百万以上の人々より祝福されているのです。もしあなたの両親がなお健在で、なお結婚したままでいるならば、それはすばらしいことなのです。もしあなたが顔に微笑を浮かべ、頭を上げ、心から感謝しているならば、あなたは恵まれているのです。なぜなら大多数の人はそうできるのですが、多くの人々がそうしていないからです。もしあなたがこのメッセージを読むことができるならば、だれかがあなたのことを考えているということによって二重の祝福を受け取ったのです。そしてあなたは祝福されているのです。なぜなら世界中で二十億の人々は読むことがまったくできないからです。

(続)

くのり
九里 彰訳

復活節第5主日

「わたしがあなたがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい」

(ヨハネ20:1～9)

わたしたちは、信仰の旅路においていくつかのカルヴァリオを通りますが、
未来の栄光への希望とお互いの愛の支えは、わたしたちを最終の勝利へと導き
ます。

例えば、ジャネットは全くひどい状態にありました。彼女は麻薬常用者であり、
続けざまにたばこを吸い、不道徳でした。彼女は孤児で、自分が「わたし
のもの」と呼べる人はひとりもいませんでした。何度も彼女は、自殺しようと
しました。ある日彼女はジョンという若者に出会いました。彼はジャネットが
入っていた病院の職員でした。ジョンは彼女を好きで、彼女に食べ物や、薬や、
雑誌を運んできました。ジャネットの悲劇的な人生について知るようになれば
なるほど、ジョンは彼女を愛するようになりました。

ジャネットは、はじめて本当の愛と心配りを経験しました。病院に入る前には
誰もが彼女を利用していました。健康が回復するにつれて、彼女も新しい人
になっていきました。彼女は度々ジョンが自分を愛しているのはどうしてなの
かと思いました。彼女は自分の人生に意味を見つけました。ジョンは彼女にイ
エスについて、イエスの人々に対する愛について教えました。ジャネットは、
今日では愛と希望の使徒です。ジョンといっしょに彼女は以前の自分のように
みじめな状態にある人たちを探し出し、その人たちが自分の人生に意味を見い
だすように助けています。

きょうの福音では、イエスは弟子たちにイエスがわたしたちを愛したように、
お互いに愛し合うように教えています。イエスはどのように愛したのでしょうか。
イエスは心から、そして全ての人——無知の人、身分の低い人、罪人、聖
人、学者、無学の人——これら全ての人を愛しました。わたしたちの愛は、た
いてい自分を愛してくれる人に限られています。けれども、イエスの愛は全て
を抱きとめ、創造的でした。イエスの愛を経験した人は、受け身ではいられま
せませんでした。彼らは豊かにされて、イエスに教えられたことを行なおうと出て
行きました。

わたしたちはキリスト者としてキリストにおいて友です、友情は愛すること
と分かち合うことにあります。愛は人々を死の縁から呼び戻し、絶望的な病い
から完全に健康をとり戻させる力、世界中の人々に新しい希望を与える力を持っ
ています。主の食卓を囲むときにはいつでも、お互いの愛と奉仕によって、新
しい天と新しい地の建設者となるように主の祝福を願いましょう。

(Sr. Paulina)

復活節第六主日

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない」(ヨハネ 14, 23-29)。

イエスは、「わたしの平和」を残し、与えるといわれます。イエスの与える平和とは、どのようなものなのでしょうか。

2004年、岩波書店より「われらの悲しみを平和への一步に 9・11犠牲者家族の記録」と題された本が刊行されました。この本は、「愛する家族の死を、戦争の口実に使わないでほしい……年齢も、住む場所も、宗派も異なる人々が、報復の連鎖を断ち切るために集まった米国の稀有なNPOの全活動記録」と紹介されています。ニュー・ヨーク世界貿易センタービルなどへの同時多発テロで愛する人をなくした家族の歩み、その後のアフガニスタン爆撃、イラク派兵と続く戦意高揚に沸き立つアメリカ合衆国の中で、このような潮流に「ノー」と言い、和解と平和を求めてきた家族の記録です。愛する者の暴力による死を、新たな暴力を正当化する口実し、憎しみと嫌悪、報復の連鎖を生む社会的潮流に逆行し、和解と連帯、相互理解と兄弟愛、平和を積極的に建設してゆく契機とする、小さい、しかし力強い歩みの記録です。死んだ人々への人間の愛は、その人を生き返らせることはできない、しかし、もう一つの愛する人の死を回避する知恵を、新たな憎悪、暴力の連鎖を断ち切る知恵を働かせるエネルギーにすることはできるのです。

しかし、このような知恵を生み出すものに逆らう勢力、罪といわれる傾斜は、人間の善意や努力を越えているものであることも、認めないわけにもゆきません。この罪の傾斜を根源から断ち切り、新しい力をもたらすこと、それに人間は憧れています、完全に成功することはないのでしょうか。むしろ、この営みに疲れ、いつしか、この努力を放棄しているのかもしれない。

イエスが残される平和。それは、憎悪と呪いの頂点、十字架の死を、愛と赦しの内に受け入れ、憎悪や絶望の中に埋没することなく過ぎ越し、復活されたイエスが与える平和。平和の建設の歩みの中で、人間の失敗を赦し、新しく始める勇気と知恵を吹き込む平和なのです。

(ルカ 渡辺幹夫)

主の昇天

「彼らが見ているうちに イエスは天に上げられた」

(ルカ 24:46~53)

主の昇天は私たちの間でのイエスの現存の終わりを記すものではなくむしろそれはイエスの新しい現存の始まりと私たちのうちに又私たちを通して行われるイエスの仕事の継続を記しています。

主の昇天の日に起こったことはリレー競争の様です。この競争でバトンは一人のランナーからもう一人のランナーに渡されます。これと同様に私たちの主が天に昇られた時、主はその仕事のバトンをペトロとヤコブ、ヨハネに渡されました。彼等はそのバトンをその後に従う人々に順々に渡しました。彼等はそれを私たちにまで順次渡し続け、今や私たちがそのバトンを他の人々に渡す番になったのです。「あなたたちは私の証人です。」(使徒行録 1:8) とイエスは天に昇られる時に言われました。このイエスの言葉はイエスの後に従う全ての人々に述べ伝えられました。・イエスのご生涯とその死、その復活と昇天を見た人々から、イエスのことを聞いただけでイエスを信じてきた私たちにまで伝えられました。

この世で福音を述べ伝えていくとき、その成功の秘訣はキリストの教えの証人である私たち自身の人としての生き方にあります。もし一人のキリスト信者が福音を通してこの世を喜びに満ちたものにしたいなら、先ずその生活に於いて福音を生きることが必要です。正義を通してキリストの平和をこの世にもたらしたいのなら、先ずその人の心がいつも神と隣人に対して正しくあるべきです。中国の格言にあるように「心に正義があるなら、その人のなかに美があるでしょう。心に美があるなら、その家庭に調和があるでしょう。家庭に調和があるなら、その国には秩序があるでしょう。」その通りです。一人の人の生活の証は小波を起こすことがあります。この小波は潮のうねりに変わり、この潮のうねりはそれまでとても可能とは思われなかった方法で地球の様相を変えるでしょう。

私たちが現代の世に於いてキリストの証人として生きることは困難な仕事です。けれどもそれは困難であると同様に慰めを得るものでもあります。何故なら主は肉の体を離れても聖霊の力を通していつも私たちと共におられます。事実、イエスは私たちが唯聖霊の力を通してのみキリストの挑戦的な仕事を引き受けることが可能なことを十分知っておられました。ですから主は言われます。「高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」(ルカ 24:49) そして後に、主は聖霊を送られました。そうです。主は教会の中で聖霊の永遠に続く現存を通していつも私たちと共にいてくださいます。

(Sr. Paulina)

聖霊降臨の主日

「聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」(ヨハネ 14, 15-16, 23 b-26)。

今日、全教会は、聖霊降臨、つまり、自分の誕生日、原点を祝います。教会の誕生、教会の生命の原点を、教会の頭ペトロが体験したイエスの過ぎ越し秘儀に眼を注ぎつつ、見てゆきましょう。

時計を逆戻りさせて、受難の夜に戻りましょう。そこに発見するペトロは、たとえ他の弟子たちがイエスを見捨てて逃亡しても、自分は「主よ、ご一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」(ルカ 22, 33)と、自信に溢れて断言する猛勇の人です。しかし、その数時間後には、「ペトロはのろいの言葉さえ口にしながら、『あなた方の言っているそんな人は知らない』と誓い始めた」(マルコ 14, 71) のです。ペトロは、人間の善意、熱心さの弱さ、限界、罪に翻弄される自分を痛いほどに味わったのです。人間の善意だけでは、イエスのお言葉と生涯の意義を把握できず、ましてや、自分を捨ててイエスに従いきることは不可能なのです。しかし、イエスは、ペトロをその限界、罪の中に見捨てて置きませんでした。復活の日、弟子たちに現れた復活者イエスは、「あなたがたに平和があるように」と赦しを宣言し、「聖霊を受けなさい」と息を吹き入れ、新しい被造物とし、証しのために派遣されました。ペトロは理解したのです。実に、イエスは、自分のような罪人を罪から贖い出し、新しい人間に創造するために十字架の上に死に、復活されたのだと。自分の力に頼った自信ではなく、罪人をも赦し、新しい創造をなさるイエスの力強い愛の息吹への信頼、依託、ここに自分の生命の原点があると。このペトロの原体験を核として心に留め、日々、自覚を深めて生きるのが教会、わたしたち信仰者ではないでしょうか。

父が遣わされる弁護者・聖霊は、教会の命、わたしたちの命の底に共にいてくださる方です。そして、教会が、また、わたしたちが、どのような環境、状況の中にも、自分の命の原点がどこにあるかを、現実をどのように生きるべきかを、常に思い起こさせてくださるのです。「聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」。

(ルカ 渡辺幹夫)

十字架の聖ヨハネこぼれ話（3）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス OCD

「なぜ泣かれているのですか。兄弟よ、私が泣いているのは、…」(その3)

祝福されたパンのかけらは増えませんでした。たくさんの食料が届きました。十日後、別の恩人が個人的な問題で聖人に相談するために修道院に登って来た時、修道士たちは彼にそこから夕食を出し、こう言いました。

「どうぞお食べになってください。これはまだ、私たちの十字架の聖ヨハネ修父によって起きた奇跡の食べ物の残りです」。

似たような状況で、聖人が涙を流したかどうか私は知りませんが、ヨハネ修士の別の福音書記者、すでにご存じのマルティン修士が語っているように、同じようなことが確かに繰り返されました。

「・・・この証人と尊敬すべき十字架のヨハネ修父がバエサ市に住民としていた時、修父はヴィカリオとしてこの修道院にいたのですが、次のようなことが起こりました。食事の時間になって食堂に入り、感謝をし、食卓を祝福したところ、食べる物が何もありませんでした。くだんの聖なる修父は共同体にこう言いました。

『喜んで修室にもどりましょう。私たちは今日、修道者としてあるべき者ではなかったのです。なぜなら私たちの主は私たちに食べ物をくださらなかったからです。』

こう言っている時、この証人のいた門の鐘が鳴りました。門を開けると、彼は二人の男が立っているのを見ました。それぞれが、パンとぶどうと他の食べ物の入ったカゴを持っていました。その日、共同体はそれらの食べ物を食べました。このようなことが三四回起こり、証人はそれらの時にいつも居合わせました。同様のことが、異なる状況のもとで、カルヴァリオやラ・ペニユエラやコルドバ市などの修道院で、くだんの聖人がいた時、起こりました」。



…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

16. 聖ラファエル・カリノウスキー (1835-1907)

ヨセフ・カリノウスキーは、1835年、ポーランドに生まれた。活動的な生活を送り、エンジニア、軍人、さらに、1863年には反ロシア支配の暴動のリーダーとなった。シベリアに流刑となり、解放された後、グラーツのカルメル会修道院に入会、そこで修道服と、聖ヨセフのラファエルという修道名を受けた。彼は、真の観想者であり、祈りを本質的なことと考えていた。しかし、また、多くの配慮を必要とする非常に要求の多い地位にあって、奉仕の生涯を生きた。彼は、教育者でもあり、当時権力を奪われていた王子の家庭教師も務めた。自分自身のことよりも他者の善益を考え、絶望的な状態にある人々や困窮している人々の世話をした。聖ラファエルは、卓越した聴罪司祭、霊的指導者であり、「悔悛者を受け入れる時、自分自身が神のいつくしみの宝庫であるように感じる」と言っていた。彼は、その霊的子供たちにとってまさに「父」のような存在であり、昼夜分かたず、その求めに応えた。教会の一致については、正教会とカトリック教会が共通して持っている聖母マリアへの信心によって、実現することができると主張した。彼の名言は、「マリアはいつも、そしてすべてのもののうちに」であった。1907年11月15日、カルメル会の諸死者の記念日に帰天。



—— 祈り ——

イエス、苦しむ人類の希望、私たちの避け所であり、力であるお方、あなたの光は嵐の海を覆う黒雲をも貫き通します。私たちの目を照らし、港であるあなたに向かって進んでいくことができるようにしてください。嵐の中で溺れ死ぬことのないよう、私たちの小舟を、あなたの十字架の釘でできた舵によって導いてください。この十字架の横木によって、私たちを荒れ狂う海から救い、あなたご自身に引き寄せてください。あなたは、私たちにとって唯一の安らぎ、明けの星、正義の太陽であります。私たちの目は涙で曇っていますから、あなたが、天のふるさとの岸辺に立っておられるのが、かすかに見えるだけなのです。あなたに贖われて、私たちは祈ります。「あなたの聖なる御名のために私たちをお救いください」と。マリアを通して、このすべての願いを捧げます。

私たちは、至聖なる母おとめマリアの母的な保護の下に、私たちの仕事をゆだねます。もし、正されるべきことがあるならば、きっぱりと正されますように。行われた善が増え続けていきますように。

この目的のために、この地上の人生の旅路にあるあなたがたの靈魂に、神の愛が満ちあふれますように。そして最後には、愛の泉、つまり永遠における神ご自身へと、あなたがたを導いてくださいますように。

シベリアからの手紙に書かれた祈り：

「おお神よ、あなたに希望を置く者の上に、あなたは何と大きな宝をお与えになるのでしょうか。」

大きな苦しみのさなかにあって：

「おお、私の神よ、いつくしみを！」 「おお、神よ、神よ、私に忍耐をお与えください！」

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(豪華カルメル会訳・編)

朝明け

早朝、いつものバス停で一番バスを待っていました。早春の朝6時過ぎ といえ、まだ空気は冷たく、肌にひんやり感じる程でした。バス停はダラダラ坂を上った頂点に位置していましたが、待ち人は私一人でしたので、それこそそのびのびした心で、目前に展開する夜明けの動く空を見ることが出来ました。頸を上に向けなくとも坂なので、眼下といってもいい程の位置に空を見下げるのですから、思いがけず、夜明けの空の展開図を觀賞させていただきました。(幸いその日は雨降りではなかった) 始に感じたことは、先ず高層ビルの林立でした。私は外出が多いので、ビルはどちらかと言えば下から見上げる方が多いのですが、この時ばかりは、眼下の遠景に、ニョキニョキと高低をもたせて立ち並ぶビルを見て、まさに自然破壊だなあ と思い一瞬ガッカリしました。そんな中でフト心は昔に遡って有名な歌人、柿本人麻呂が詠んだ歌が思い出されました。

東の、野に かぎろいの立つ見えて、かえりみすれば 月傾きぬ

(東の野に曙光「かげろう」の立つのが見えると思えば、西を振り返って見ると、月が傾いている) 何と豪快心、そして開放感に満ちた歌でしょうか。現代では、とんでもない、やっと空が見えた と思えば、次の瞬間、ビルまたビルが林立して空がつながらない だからコセコセしてしまうのだろう と思ったりしました。

秋風は涼しくなりぬ 馬なめて (ならべて) いざ野に行かな萩の花見に (広い大空のもと、心ゆくばかり萩の花が咲きこぼれているのを、馬を並べて見に行く有様が手にとるように感じられる優雅な歌) 21世紀を迎えた現今、こんな美しい広大な風景は想像も期待も出来ません。そんなことを思い巡らしている内に、現実の空に朝日が昇ってきて、雲で蔽われていた部分が分かれて美しい 橙 色の縁取りや、桜色の縁取りの雲となり、直接朝日の当たったところは、金色の雲に散りばめられました。何と美しいことでしょう。 私は途端に“アレだっ!!” と思いました。それは日本の書道や絵画で用いる、色紙や短冊の地模様、ぼかしで薄く描かれてある、あのムラ雲その通りだったのです。そうなんだ。日本人は、昔からこのように自然と直結していて、その心中には(たとえ無意識であったとしても)自然の雄大さと、その変遷を強く感じ取っており、それを何等かの形で現していたのだと改めて思いました。 神を探し求める人々が教会に行くと、何だかすごく難しい神概念を説明され、少し分かっていたと思われたものが逆に神を客体に見てしまい、自分より遠くの存在に感じ、頭の結合の中で捉えられガチなのですが、日本人には、以上述べたような、素晴らしい自然との一致があったこと、また あることを、改めて感じさせられた一瞬でした。教会に来た人々にも、こんな風に、日常身の回りに起こることから話してあげられたら、もっと実感が湧くのではないかと思っただけでもありました。 お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子

いのちの言葉 4月

わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。

(ルカ22・27)

除酵祭の日が訪れ、イエスは「二階の広間」で、弟子たちと共に最後の食事をされました。パンを裂き、ぶどう酒の杯を回した後、最後の教えとして言われたことがあります。それは、イエスに従う人の中では、一番偉い人が一番若い者ようになり、上に立つ人は仕える者ようになる、ということでした。

ヨハネ福音書には、イエスが、ご自分に従うすべての人の間に築かれた新しい関係を示すため、一つの説得力ある行いをされたことが出てきます。弟子たちの足を洗う、というその行為は、あらゆる優越性や命令の論理に逆行するものでした。(使徒たちは、最後の晩餐の時、自分たちの間で「一番偉い者」は誰かと議論していました。)

わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。

「愛するとは、仕えることを意味します。イエスはその模範を示してくださいました」¹と、キアラ・ルービックは語っています。

「仕える」と言うと、人の価値が下がるように感じられ、「仕える人」とは、一段下のレベルに見なされる場合が多いかもしれません。しかし一方で、誰もが「仕えられる」ことを望んでいます。たとえば公的機関や公共サービスからも、私たちは仕えられることを要求します。よい対応の店員や、書類を早く処理してくれる社員、専門的に注意深く治療にあたる医師や看護師に、私

たちは感謝の念を抱きます。このように、私たちが他の人から奉仕を期待するなら、他の人たちも同様に、私たちの奉仕を待っていることでしょう。

イエスのみ言葉は、私たちキリスト者がすべての人に対して「愛の負目」を担っていることを思い起こさせてくれます。私たちは、一緒に生活する人や職場で出会う人、一人ひとりを前にする時、イエスと共に、イエスにならって、次のように言える必要があるでしょう。

わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。

キアラ・ルービックも語っています。

「キリスト教とは、仕えること、すべての人に仕えることです。皆を自分の主人として見ること。私たちが仕える者なら、相手は主人になります。仕え、相手の下になること、福音の言葉通り、一番偉い者になるため皆に仕えることです。

キリスト教は、真剣なものです。ちょっとした表面的な憐れみや愛、施しとも違います。良心の呵責を感じないためにどこかに寄付をする一方で、他の人に命令し、抑圧するのは、易しいことです。」

では私たちは、どのように仕えればいいのでしょうか。キアラは次のようなシンプルな言葉で表現しています。「相手になって生きること」「相手の中に入って、その人の感情を理解し、重荷を共に背負うこと」です。

具体例も挙げられています。「遊んでほしいと言う子供には、どうすればいいでしょうか。遊んであげましょう。一緒にテレビを見よう、出かけようという家族に應じ

¹ キアラ・ルービックの講演より (1982年9月26日バイエルン(スイス))

るなら、時間の無駄でしょうか。いいえ、そうではありません。すべてが愛ですから、むしろ時間を稼いだことになります。私たちは、愛ゆえに相手と一つになる必要があります。

仕えると言っても、出かける人にコートを渡したり、食卓の準備をしたり、そういうこともしなければならぬのでしょうか。そうです。イエスが私たちに望まれる奉仕は、頭で考えるだけのものや感情だけのものではなく、手も足も頭も使う、具体的なものです。本当に、仕える必要があるのです。」²

わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。

このいのちの言葉を実践するための方法は明らかでしょう。他の人に注意を向け、相手の必要にすぐ答え、具体的に愛することです。

ある時には、自分の仕事をより良く果たしながら、これを実践できるでしょう。最大限に能力を生かして完全に仕事をこなすなら、それによって、私たちは兄弟に仕えることができるからです。

さらに、お年寄りや失業中の人、ハンディキャップを抱える人や孤独な人など、私たちの周りや遠くで助けを求める人々にも、手をさしのべることができるでしょう。あるいは、自然災害に遭って私たちの国に避難してくる人々がいるかもしれませんし、里子制度への協力や人道プロジェクトの支援依頼などが、私たちのもとに届くかもしれません。

また、責任ある立場の人は、皆が兄弟姉妹であることを心にとめ、不快感を与える命令調の態度をなくしたいものです。

もし私たちがすべてを愛のうちに果たすなら、キリスト教の古い格言にあるように「仕えるとは、治めること」だと発見するでしょう。

ファビオ・チャルディ神父
ガブリエラ・ファラカラ

² 同上

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

去年フォコラーレの集い「マリアポリ」の1日目が終わって家に帰った時の事です。夜の10時近くに、明日の準備の事など、妻と車の中で色々話をして帰宅すると、高2の息子が発熱していました。家に薬も無かったので、近くの薬局に買いに行かなければなりません。いつもの私なら、「高2にもなっているのだから寝ていれば治るだろう」と言って、自分からは何もせず妻に任せていたでしょうが、マリアポリに参加していて心が優しくなっていたのと、「愛するとは、仕えること」という具体的な愛の実践の仕方を学んでいたので、「息子に仕えよう」という心で薬を買に行きました。ところが、薬を買って帰宅すると、「ボカリスエットも欲しい」と言うのです。さすがに私も「一度に全部言ってくれ」と思って少しムッとしましたが、「仕える」とはどういうことかと考えなおし、すぐにまた心おだやかに買い物に行くことが出来ました。翌日には息子も元気になり、私たち夫婦はマリアポリの最後のミサにも与ることが出来ました。(T・沖縄)

●お知らせ

関東：フォコラーレの集い

4月15日(日)

四ツ谷・調布・鷺沼・藤沢

九州：マリアポリ

5月3日(木)～6日(日)

国立諫早青少年自然の家

(長崎県諫早市白木峰町 1109-1)

フォコラーレ:

連絡先:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/>

復活祭

蛭田幼一

ご復活の朝は 抜けるような

碧空^{あおぞら}であったが 次の日は雨 傘を差して

あつ と思つたら バスが来た

ご復活の日曜日に 亡き父のお墓へ参る

「百合ちゃんは四月から大学生ですよ

息生^{やすお}も心機一転 起死回生を図りますよ」

お祖父ちゃん だから お祖父ちゃん

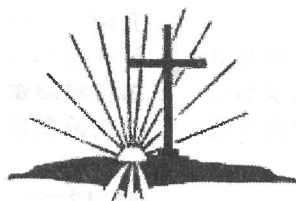
次の日は雨 バス停の自販機に 百円玉

何度入れても 出てきてしまう あつと

思つたら バスが来た 傘をすぼめて

傘^{はた}を叩いて 二〇〇五年の ご復活祭は

私の 五十六歳の 誕生日です



カルメル会の企画案内



内案画金の会小と小大



上野毛霊性センター '07年5月～'08年3月

A 黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 聖書深読(毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

7月 7日～ 8日 九里彰師

12月15日～16日 九里彰師

08/ 2月23日～24日 九里彰師

一日聖書深読(毎回土曜日午前10時～午後4時)

10月13日 九里彰師

11月17日 九里彰師

08/ 1月12日 九里彰師

3月15日 九里彰師

2. 奉獻生活者のための黙想会

7月26日(木) 夕食～ 8月 4日(土) 朝 九里彰師

8月21日(火) 夕食～ 30日(木) 朝 福田正範師

12月26日(水) 夕食～08/1月4日(金) 朝 福田正範師

3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日10時～16時)

5月 3日 私はぶどうの木、あなた方はその枝である 九里彰師

6月28日 思い悩んではならない 福田正範師

7月 5日 子よ、元気を出しなさい 九里彰師

10月25日 あなたの信仰が、あなたを救った 福田正範師

12月20日 お言葉どおり、この身に成りますように 九里彰師

08/ 1月31日 主よ、助けてください 福田正範師

2月28日 見えない者は、見えるようになる 九里彰師

3月27日 あなた方に平和があるように 福田正範師

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎週金曜日10時～16時)

5月25日 カルメルの父 聖ヨゼフ 福田正範師

7月20日 カルメルの元后 聖マリア 福田正範師

9月21日 アヴィラの聖テレジアの説く「従順」 九里彰師

10月 5日 リジューの聖テレジアが生きた「祈り」 九里彰師

11月 2日 自分に死に、あなたに生きんことを 福田正範師

12月 7日 三位一体のエリザベットの示す「天国」 九里彰師

08/ 2月 8日 御復活のラウレンシオ 福田正範師

東京

5. 青年黙想会（男女） 九里彰師 神学生
5月 4日（金）17時受付～ 6日（日）16時
11月23日（金）15時受付～24日（土）16時
6. 召命黙想会（男女） 九里彰師
11月 9日（金）20時～11日（日）・・・（9日は夕食を済ませてご参加ください）
7. 大祭日のミサに与かるために
【クリスマス】・・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
12月24日（月）～25日（火）《講話なし、夕食なし》
【聖週間を祈る】チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。
08/ 3月20日（木）～23日（日）《講話なし、各食事つき》
8. 特別黙想会 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）夕食を済ませてご参加ください。
A【私は神を見たい】・・・聖霊に導かれて
6月29日（金）20時 ～ 7月1日（日）
B【私は神を見たい】・・・祈り
10月26日（金）20時 ～ 28日（日）



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

B カルメル霊性研究クラス (九里 彰神父)

* 十字架の聖ヨハネ『愛の生ける炎』

- 4月25日 緒言と第一の歌の14まで
5月16日 第一の歌の15から27まで
6月6日 第一の歌の28から36まで

* アヴィラの聖テレジア『創立史』

- 5月2日 「第6章」
5月30日 「第7章と第8章」
6月13日 「第9章と第10章」

どちらも水曜日夜7:15~8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

C 祈りの集い (九里 彰神父)

5月は、都合によって、お休みいたします。

6月29日 「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上に教会を建てる。」

毎月一回金曜夜7:15分より。上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

7:15~8:15 み言葉と念祷

8:15~8:45 分かち合い(参加自由)

D 東西霊性研究クラス (九里 彰神父)

カルメルの霊性を通して、広く諸宗教の霊性を学ぶため、4月から開講します。

- * 原則として毎月第二金曜日(午後7:15~8:45)信徒会館26号室
- * 各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。
- * 第二回 5月11日『行持下』(道元著『正法眼蔵』岩波文庫第一巻、第十六
- * 発表者: 梶川英夫氏
- * 問い合わせ: 加藤和彦 TEL(03)3418-6816





特別黙想会



《わたしは神をみたい》

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ帰天40周年にあたって—

21世紀に生きるわたしたちが 聖霊に導かれて生きるとは？

講師：伊従信子NDV

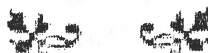
6月29日（金曜日）PM20:00 ~ 7月1日（日曜日）PM15:00



はるか前から
わたしは愛の霊にとらえられていた

わたしの聖性は
うちなる聖霊を信じ
その霊に
まったく自分をゆだねること

— 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ、ocd —



*当日は、夕食を済ませて参加して下さい。

*持参するもの：

聖書（新約）・・・備えてありますが、使い慣れているご自分の物がよい方は持参して下さい。
筆記用具、洗面道具、パジャマ

*参加費 12,000円

158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355

Fax 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

C.Y.C.(カルメル・ユース・クラブ)

キリスト者青年の集い

聖霊降臨 (ペンテコステ) の恵み

復活したキリストは、「エルサレムから離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい」と使徒たちに言っています。聖霊降臨とは、どういうことでしょうか。私たちキリスト者の生活と、どういう関わりがあるのでしょうか。祈りながら、一緒に考えましょう。

日時：5月27日(日)

13:30~16:30

対象：18歳以上30歳までの青年男女

スタッフ：カルメル会士

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

東急大井町線上野毛駅下車 徒歩5分

プログラム

13:30~	受付開始
13:45~	始めの祈り
14:00~14:50	講話：聖霊降臨の出来事
15:00~15:45	分かち合い
15:45~16:00	念祷 終わりの祈り(聖霊の続唱)
16:00~16:30	茶話会
16:30	解散



連絡先・問い合わせ

参加ご希望の方は、FAX または E-mail で、住所、氏名、年齢をお書きの上、下記までお送りください。当日、飛び入りで参加されても結構です。

カルメル修道会カルメル・ユース・クラブ (C.Y.C.) 係 Fr.九里

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

Tel 03-3704-2171 Fax 03-3704-1764

E-mail tokyo@carmel-monastery.jp

＊ ＊ 宇治聖テレジア修道院 (黙想) ＊ ＊

1. 聖書深読

① 一泊二日 (午後5時～午後4時)

5月19日 (土) ～20日 (日) カルメル会士

7月21日 (土) ～22日 (日) 新井延和神父

9月15日 (土) ～16日 (日) カルメル会士

11月17日 (土) ～18日 (日) 渡辺幹夫神父

08/ 3月 8日 (土) ～ 9日 (日) 新井延和神父

② ミニ深読 (午後14時～午後16時)

2月13日 (火) 深読スタッフ

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

5月23日 聖霊 長岡幸一神父

6月20日 み心 ベルナルド神父

7月18日 カルメルの聖母 カルメロ神父

9月19日 エディットシュタイン 渡辺幹夫神父

10月17日 アビラの聖テレジア アロイジオ神父

11月14日 日常の聖性 中川博道神父

12月12日 十字架の聖ヨハネ 新井延和神父

08/ 1月16日 新しくなる 渡辺幹夫神父

2月20日 聖書の祈り 新井延和神父

3月12日 主の受難 カルメロ神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

08/ 2月9日 (土) ～2月10日 (日) カルメロ神父

4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月1日 (土) ～12月2日 (日) 渡辺幹夫神父

5. 聖テレズの黙想 (午後5時から午後4時まで)

9月30日 (日) ～10月1日 (月) 伊従信子 NDV

6. 一般のための黙想会 (修道者も可能)

4月28日 (土) ～5月5日 (土) 中川博道神父

7. 日曜黙想会 (午前10時～午後4時)

6月10日 渡辺幹夫神父

10月 7日 渡辺幹夫神父

8. 奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（木）～ 8月11日（土）	中川博道神父
8月18日（土）～ 8月27日（月）	渡辺幹夫神父
10月20日（土）～10月29日（月）	渡辺幹夫神父
12月27日（木）～ 1月 5日（土）	カルメロ神父

9. 青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月4日（日） カルメル宣教修道女会 中川博道神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

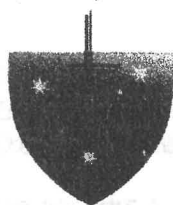
*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457



「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

～都会の中の一日静修～（2007）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかたはどうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

了	第1回	1月16日(火)	神の現存の体験	松田浩一神父	(上野毛修道院)
了	第2回	2月12日(月)*祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父	(宇治修道院)
了	第3回	3月21日(水)*祝	赦しの秘跡	新井延和神父	(宇治修道院)
了	第4回	4月17日(火)	聖体の秘跡	カルメロ神父	(宇治修道院)
	第5回	5月15日(火)	結婚の秘跡	九里彰神父	(上野毛修道院)
	第6回	6月19日(火)	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父	(宇治修道院)
	第7回	7月16日(月)*祝	カルメル山の聖母	新井延和神父	(宇治修道院)
	第8回	9月11日(火)	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父	(日比野修道院)
	第9回	10月16日(火)	アヴィラの聖テレジアと秘跡	Sr.ベアトリス	(宇治修道院)
	第10回	11月23日(金)*祝	病者の塗油	ベルナルド神父	(宇治修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
(駐車場は利用できません。)

* 費用 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約20名

* プログラム

10:00～	祈り
10:40～	講話【1】
12:00～12:45	昼食
12:50～	赦しの秘跡または短い面接
13:30～	講話【2】
14:45～	ミサ
15:30～	茶話会
16:00～	終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へ\ガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市長東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京都（毎回土曜日）

5月26日	新井延和神父	10月6日	P.オハール神父
6月9日	渡辺幹夫神父	11月17日	奥村豊神父
7月14日	P.オハール神父	12月8日	新井延和神父
9月8日	新井延和神父		

*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解説で学びながら福音を深く心に刻む
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回 2,500円（昼食代を含む）

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ（お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

4 名古屋聖書深読会

5月19日（土）～20日（日） 宇治カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

中川博道神父・奥村一郎神父

10月6日（土）

日比野カトリック教会 中川博道神父

- * 毎回事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- * 定員 21名 申し込みはFAXかハガキでお願いします。
- * コースは深読法を集中的に行う一日コースと全行程を沈黙のうちに黙想しながら1泊2日のコースがあります。
- * 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方ならどなたでもご参加ください。

申し込みは、下記の住所へ、ハガキかFAXで、氏名、住所、TELを記入の上開催の3日前までに必着のこと。キリスト者は所属教会名もご記入ください。

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 有光信子さんのグループ

- ① 通信・・・参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

- ② ミニ深読（午後2時～4時）毎月第4木曜日（8月はお休み）宇治カルメル会教会

①②とも：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 323 (2006年冬号) 「今日の靈性」

- * 聖霊の光のもとに — 聖書と教父(4) …高橋正行
- * 祈り(13) …チプリアノ・ボンタッキョ
信仰による照らし — 第四講話(第一部) …フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(4)
— 『靈魂の城』を中心にして …九里 彰
三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって(4) 光、愛、いのちへ …伊従信子
エディット・シュタインの神への道行き(2)
— アピラのテレサとの邂逅とその影響 …須沢かおり
愛で生きる(3) …ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(15) — 全存在をかけて祈る …伊従信子
- * 石牟礼道子の作品に見られるキリスト教(3)
…『十六夜橋』のコスモロジーと「原罪」 …谷口正子
愛の断章(2) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 324 (2007年春号) 「今日の靈性」

- * 聖霊の光のもとに — 教父たちの教えと生き方(5) …高橋正行
「向こう岸に渡ろう」 — マルコ福音書 4章 35～41節 …九里 彰
ハンナの祈る心 — サムエル記一章より …中川博道
- * アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(5)
— 『靈魂の城』を中心にして …九里 彰
愛で生きる(4) …ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(16) — あなたの信仰を信じなさい…伊従信子
カルメルの響り(8) ～結実へ～OCD 日本創立に向けた具体的な動き I…大瀬高司
エリザベットの「魂のこだま」、ギット — 信徒の生き方を探る …伊従信子
- * 言わなかった”思い”たち …森 みさ
愛の断章(3) …奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356)

待望の再販

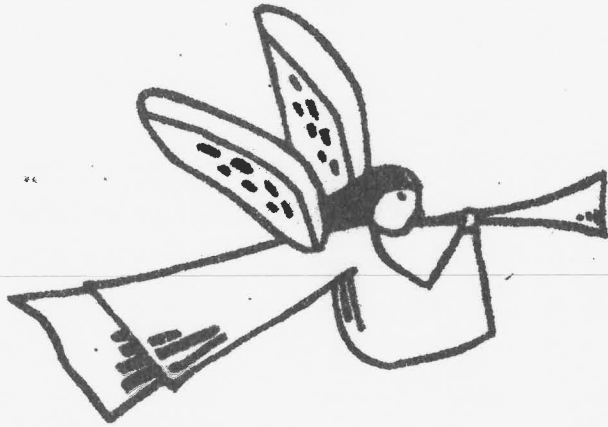
『自叙伝』(サンパウロ社)、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)



バルトロメー・エステーバン・ムリーリョ
Bartolomé Esteban Murillo

ロザリオの聖母
Virgen del Rosario

諸所の企画案内



CWC 企画

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

真命山霊性交流センター

ノートルダム教育修道女会

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム・ド・ヴィ

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

今年、「聖書深読入門」を行ないます。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

連絡先：神藤（CWCスタッフ）TEL（03）3642-5629

2007年

5月 8日（火）

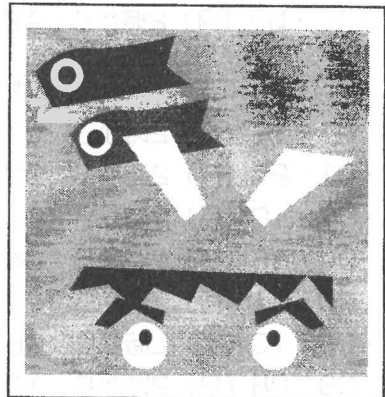
6月12日（火）

7月10日（火）

10月9日（火）

11月13日（火）

12月11日（火）



8月9日はお休みいたします。

方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。
(無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。)
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2007年度 ★

M1	07・05・17 (木)	2時から	05・23 (水)	2時まで	盛岡・白百合・シャルトル
K3	07・06・03 (日)	2時から	06・09 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
P2	07・06・17 (日)	2時から	06・23 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
N1	07・06・26 (火)	2時から	07・02 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
Y2	07・07・22 (日)	2時から	07・28 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
P3	07・08・10 (金)	2時から	08・16 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	07・09・09 (日)	2時から	09・15 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
B2	07・10・17 (水)	2時から	10・23 (火)	2時まで	札幌・厚別・ベネディクト
N2	07・11・02 (金)	2時から	11・08 (木)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
K5	07・11・11 (日)	2時から	11・17 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
P4	07・12・03 (月)	2時から	12・09 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会

★ 2008年度(決まっている会場) ★

M1	08・01・11 (金)	2時から	01・17 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	08・01・27 (日)	2時から	02・02 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M2	08・03・10 (月)	2時から	03・16 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K2	08・04・13 (日)	2時から	04・19 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
K3	08・06・01 (日)	2時から	06・07 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

一日内観・ミニ内観のご案内

一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて

参加費は1万円

- ・2007年4月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで
- ・2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで
- ・2008年6月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

ミニ内観

★沖繩・安里修道院・毎月第一水曜日

10時から3時まで・シスターかんな
電話 098・866・8293

★東京・神奈川県内観経験者のミニ内観の集い

聖母訪問会・三浦修道院にて
4月29日(日)、6月10日(日)
問い合わせ 小倉
FAX 045・824・1462

リーゼンフーバー 講座・集い 案内

2007～2008年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ● 4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時 } 秋川神冥窟。1泊2400円程度。
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分
10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分 上石神井。5600円程度。
● 5月12日(土)13時～13日(日)16時 } 宝塚市
8月1日(水)17時30分～7日(火)13時
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し8月14日は休み。8月28日は上智大学内クルトウルハイム聖堂。
12月25日(火)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
●通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日) 18時～21時 上智大学内クルトウルハイム聖堂
- 祈りの集い ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月14日、5月26日、6月30日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、
2008年1月12日、2月2日、3月15日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
- 黙想会 5月19日(土)10時～20日(日)15時、9月22日(土)10時～24日(月)14時、12月1日(土)10時～2日(日)15時、
2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。
- アガベ会 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
4月21日(土)、6月16日(土)、10月21日(日)、2008年1月20日(日)
- クリスマス会 12月15日(土) 17時～ 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ 12月23日(日) 14時～ 上智大学内クルトウルハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2007～2008年

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各回のテーマ

- 了
了
- 4/13 信仰の道—人生の意味を問う
 - 4/20 聖書の人間像—人間の現状と使命
 - 4/27 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
 - 5/11 神認識の道—理性と経験を通して
 - 5/18 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
 - 5/19-20 ●黙想会
 - 5/25 歴史と信仰—神と人間との出会い
 - 6/1 新約聖書の神理解—主なる父
 - 6/8 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
 - 6/15 救い主の役割—人類の待望
 - 6/22 神の国—イエスの告げるメッセージ
 - 6/29 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
 - 7/6 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
 - 7/13 イエスは誰か—イエスの自己理解
 - 7/20 最後の晩餐—自分を与えるイエス
 - 7/27 イエスの受難—その史実と意図
 - 7/28 感謝のミサ (14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)
 - 8/3, 10 ○休み
 - 8/17 イエスの死—その救済的意味
 - 8/18-26 ●通う霊操 (18-21時) (上智大学内クルトゥルハイム2階)
 - 8/24 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
 - 8/31 イエスの復活—今に生きるイエス



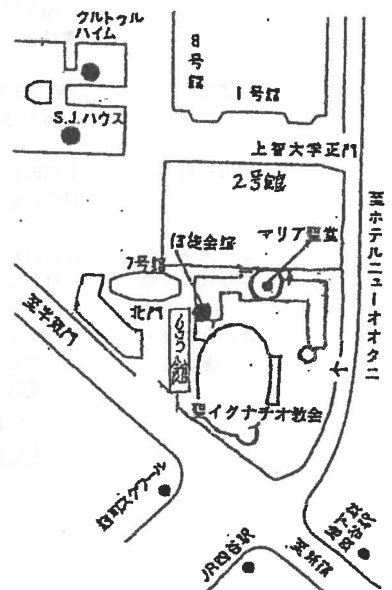
リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座 2007～2008年

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

毎回のテーマ

- 了
了
- 4/3 [倫理の基礎づけ] 人間の尊厳—自立と自己実現
 - 4/17 神の似姿—自己超越と善なる神
 - 5/1 ○休み
 - 5/15 人生の目標—神への愛による幸福
 - 5/19-20 ●黙想会
 - 5/29 人間以外のものの意義—世界の使用と聖化
 - 6/5 創造と救い—イエスのまねび
 - 6/19 [倫理的行為] 善い行為の規範—人間の本性と神の意志
 - 7/3 人間的行為—自由と良心
 - 7/17 性格の形成—徳と感情
 - 7/28 感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)
 - 7/31 人間の弱さ—誘惑と罪
 - 8/7 魂の癒し—恩恵・回心・ゆるし
 - 8/18-26 ●通う霊操 (18-21時) 21日は振替 (上智大学内クルトゥルハイム2階)



坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

(祝日を除く)

場 所 : 上智大学内クルトウルハイム1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接 心 2007年度

関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時

6月22日(金)20時30分～24日(日)13時

8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分

10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時

2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

秋川神冥窟

1泊2400円程度

関西

5月12日(土)13時～13日(日)16時 宝塚市 ②

8月1日(水)17時30分～7日(火)13時 宝塚市 ①

連絡先 ① シスター田中 電話 0797-84-7863

② 岸本 正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先:

クラウド・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス

電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



黙想へのお誘い

メディテーション

「会社帰りの黙想」

—あわただしい毎日に平安のオアシスを—

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、タペのひとときに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なされる方も、お気軽にいらしてください。

日時：毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

但し8月14日休み、8月28日上智大学内クルトゥルハイム聖堂

12月25日(火)クリスマス・メディテーション(予定)

場所：聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

東京都千代田区麹町6-5 Tel.03-3263-4584

(JR、地下鉄四ッ谷駅から徒歩)

指導司祭プロフィール

クラウス・リーゼンフーバー(Klaus Riesenhuber)

1938年生まれ、1967年来日

イエズス会司祭、哲学・神学博士

元放送大学客員教授

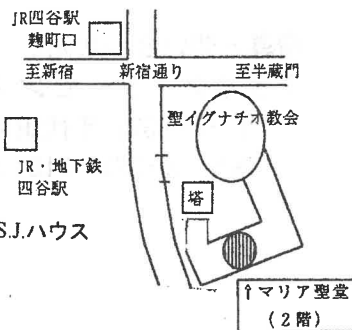
現在、上智大学文学部哲学科教授

連絡先：〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学S.J.ハウス

Tel.03(3238)5124(直通)/5111(伝言)

http://www.jesuits.or.jp/~l_riesenhuber/index.html

<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>



真命山

2007 年度行事のご案内

祈りの集い (午前10時～午後3時)

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

- 了 1月11日(木) 聖ダミアノの十字架のもとで祈った
聖フランチスコ
- 了 2月8日(木) 十字架に釘づけられたキリストの体
- 了 3月8日(木) キリストの受難と死
- 了 4月12日(木) 死に勝たれたキリストの姿
- 5月10日(木) イエス様の十字架のもとに
立っておられるマリア様
- 6月14日(木) 十字架につけられたキリストの御顔
- 7月12日(木) // (続き)
- 9月13日(木) 三位一体の栄光を表す十字架
- 10月11日(木) 十字架につけられたキリストを
囲んでいる人々
- 11月8日(木) 十字架を担ってキリストに従う
- 12月13日(木) 十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父 (院長)

シスター マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel: 077-579-7580

Fax: 077-579-3804

Eメール: nd-inori@mbr.nifty.com

◎ 交通: JR 京都駅から湖西線で「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程:

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2006年12月27日(水)～2007年1月4日(木)了

② 2007年2月20日(火)～2月28日(水)了

③ 7月23日(月)～7月31日(火)

④ 8月18日(土)～8月26日(日)

⑤ 9月1日(土)～9月9日(日)

B. 週末3日間の個人指導による祈りの体験(神との親しさの中で日常を生きるために)

初日は、17時のミサで始まり、最終日は13時30分のミサで終わります。

⑥ 2007年1月19日(金)～21日(日)了

⑦ 2月2日(金)～4日(日)了

⑧ 4月13日(金)～15日(日)了

⑨ 5月11日(金)～13日(日)

C. 3日間の週末個人黙想(週末に個人黙想をなさりたい方のため)

他の黙想会が行われている場合があります。

⑩ 2007年2月23日(金)～25日(日)了

⑪ 3月2日(金)～4日(日)了

⑫ 3月23日(金)～25日(日)了

⑬ 5月18日(金)～20日(日)

⑭ 6月29日(金)～7月1日(日)

⑮ 9月7日(金)～9日(日)

⑯ 10月5日(金)～7日(日)

⑰ 10月12日(金)～14日(日)

⑱ 10月19日(金)～21日(日)

⑱ 11月 2日(金)～ 4日(日)

D. 霊性プログラム：ワークショップ (自己発見から神へ)

⑳ 2007年3月22日(木)～ 29日(木) 了

E. 上記の日程以外でも、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせてください。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 担当者： トニー・ブロードニャック師 (マリール宣教会) と シスター が
霊的同伴者としてお手伝いいたします。

◎ 受付： 受付(チェックイン)は、いずれの場合も、初日の午後3時からです。

◎ 申込先： 郵送、または、Fax でお願ひします。

郵送： 〒520-0106 大津市唐崎 1丁目3-1 ノートルダム修道院

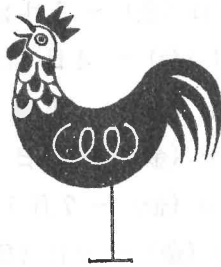
Fax： 077-579-3804

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて下さい。

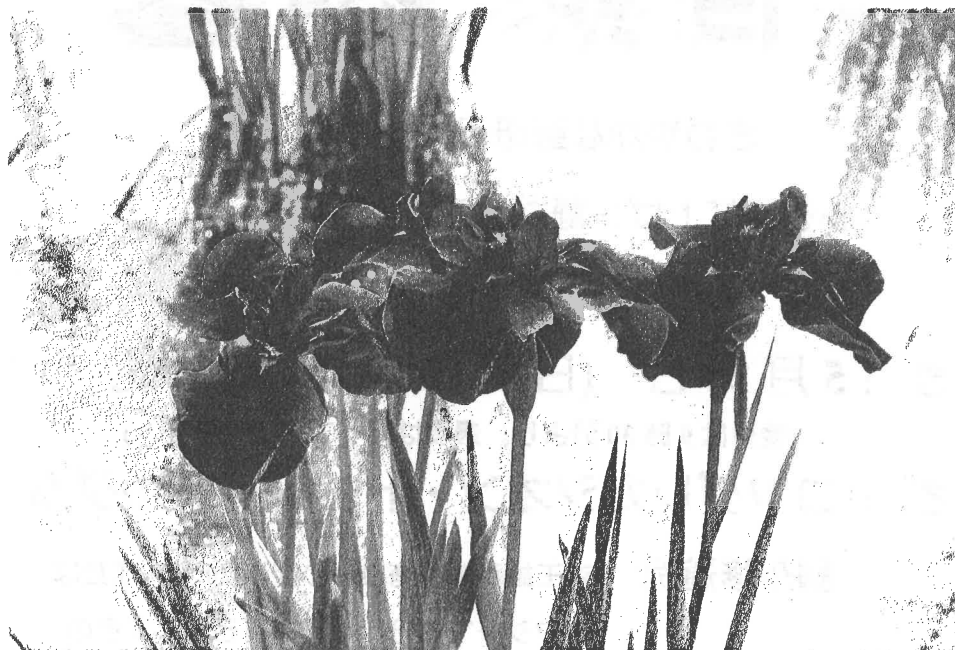
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。但し、それ以前に満室に
なった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ 問い合わせ： 電話： 077-579-7580 または、

Eメール： nd-inori@mbr.nifty.com 「件名は黙想」でお願ひします。



祈りの集いのご案内



1 日黙想会

—イエスの息づかい—

- 講 話 : 澤田 豊成師(聖パウロ修道会)
日 時 : 2007年5月13日(日) 10:00~4:00
対 象 : 20代30代の未婚女性
参加費 : 1000円 申し込み:5月12日(土)まで

問い合わせ・申し込み

〒182-0034 東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(担当: Sr.山本 Sr.池田)

京王線調布駅下車徒歩13分(鶴川街道沿いマルガリタ幼稚園隣)

TEL: 0424-82-2012 FAX: 0424-82-2163

E-mail: prayer3551cnd@hotmail.com

URL: www.cnd-m.com

一日黙想会

さわやかな聖母月の一日

心を天に上げ、静かなひとときを…

ご一緒しませんか

と き : 5月20日 (日) 10時~16時30分

(受付は9時30分より。最後はミサで終了します。)

と ころ : コングレガシオン・ド・ノートルダム

調布修道院 (京王線調布駅南口より徒歩20分、または
タクシーで5分。調布市下石原3丁目の
マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。)

テーマ : 「聖書に見られるマリアの姿」

講 師 : 河合 恒男 神父 (サレジオ会)

参加費 : 2,000円 (昼食・おやつ代を含む)

対 象 : 男女年齢を問わず、信徒・求道者の皆さま

定 員 : 80名

※ お申し込みは5月13日(日)までに、

Tel. 042-482-2012

調布修道院へお願いします。

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2007年 5月19日(土)

— 聖母マリア —

(幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師帰天40周年にあたって)

* 次回の予定 6月23日(土) *

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



奥村一郎 Okumura Ichiro • カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の靈性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の靈性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。——著者による「刊行にあたって」より

奥村神学の全貌。

深い信仰と豊かな靈性、

そして透徹した知性が織り成す

奥村一郎選集

Okumura Ichiro

全9巻

2007年3月刊行開始

オリエンス宗教研究所

定価各2,100円

(本体2,000円)

四八判上製・平均240頁

奥村一郎選集 全9巻の構成

- 第1巻 慈悲と隣人愛 (解説) 西村恵信
- 第2巻 多文化に生きる宗教 (解説) ヤン・ヴァン・リブラフト
- 第3巻 日本の神学を求めて (解説) 小野寺功
- 第4巻 日本語とキリスト教 (解説) 阿部伸麻呂
- 第5巻 現代人と宗教 (解説) 鶴岡賀雄
- 第6巻 永遠のいのち (解説) 八木誠一
- 第7巻 カルメルの靈性 (解説) 高園泰子
- 第8巻 神に向かう〈祈り〉 (解説) 高橋重幸
- 第9巻 奉獻の道 (解説) 宮本久雄

聖フランシスコ・ザビエルによる日本開教から四百五十年、途中数々の困難がありながらも、まかれた福音の種は今日まで生き続けています。この地の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索し続けた一人の日本人——奥村一郎。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集めたものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話におけるダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。あわせて、その柔軟な視点は二十一世紀の今、宗教対立や文化葛藤を乗り越え、寛容を求めるすべての人々への道標となることでしょう。その時と場所で与えられた役割を誠実に果たし続けた著者の足跡をまとめた本選集が、日本の教会と社会で長く受け継がれる財産となることを願ってやみません。

オリエンズ宗教研究所

Okumura Ichiro

全9巻の主な内容

- | | | |
|---------------|--|------------|
| 第1巻 慈悲と隣人愛 | カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行 | 3月刊 |
| 第2巻 多文化に生きる宗教 | 大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ／アジアにおけるカトリックの現代的課題 | |
| 第3巻 日本の神学を求めて | 日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟 | |
| 第4巻 日本語とキリスト教 | 日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳 | |
| 第5巻 現代人と宗教 | 現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育 | |
| 第6巻 永遠のいのち | 嬰兒復帰／人間の栄光と悲惨／死を見つめる／十字架の秘義／人間と世界と神 | |
| 第7巻 カルメルの霊性 | アピラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋の霊性 | 4月刊 |
| 第8巻 神に向かう〈祈り〉 | 考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈ることの意味 | |
| 第9巻 奉獻の道 | 清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性 | |

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 Tel:03-3322-7601/Fax:03-3325-5322/jimu@oriens.or.jp http://www.oriens.or.jp

オリエンズ宗教研究所刊 奥村一郎選集 (全9巻) 各巻定価2,100円 (本体2,000円)	ご住所 〒	お電話	取扱書店
	お名前		
第 巻 書名	冊	4 3	
第 巻 書名	冊		
を購入します		配給元・日キ版	

購入申込書

た。書いたものが少しずつたまって雑誌記事五百本ほどになり、祈りに関する本とか短い文章を集めた本などはすでに出版してしましたが、自分が本当に言いたいキリスト教の真髓に関することで、本になっていないものがたくさん残っていました。それで出版しようと思つた次第です」

体で分かなければ

奥村神父のキリスト教との出会いは不思議だ。「私は学生時代、福音書に書かれている奇跡物語が気に食わず、キリスト教を否定する論文を書こうと決心し、全精力を注いだ時期がありました」

そのとき、一人の外国人宣教師と出会う。「神言修道会のナーベルフェルト神

父様は資料を貸してくれ、場所も提供してくれる。お菓子まで出してくれました。とても親しみの持てる人柄で、ひきつけられました。こういう人格を作り出すキリスト教はたいしたものだと心の底で感じていたと思います」

論文が出来上がり、キリストの真の偉大さが分かった。尊敬する禅の中川宋淵老師にこの体験を話すと、洗礼を受けるよう忠告された。「驚いたことに『頭で分かっただけではだめだ。体で分かなければならぬ。そのためには洗礼を受けなさい』と」

暗夜を赤裸な信仰で

その後、日本人としての靈性を深めてきた。「信仰を本当に自分のものにする

ために、仏教と神道に培われた日本の靈性の伝統を踏まえることが大切だと思います。私は神道にはあまり縁がありませんでしたが、禅仏教に養われた者として、キリストとの出会いを深め、祈りの生活を生きてまいりました」

日本人にさらに祈るよう勧める。「祈りは大切なものです。祈りは魂の呼吸であり、人は祈ることによって本当に人となります。祈りを忘れては信仰も深まらないし、人間としても深くないでしょう。祈りとは、無になって神に近づくことです」

「無になる」とはどういうことだろう。「無になるとは、禅で無所有、無所得などと言いますが、分かりやすく言うと

祈りを杖として

神を利用しようとしないということです。人間に都合のよい神はないのです。このことをしっかりと肝に銘じ、暗夜の中を赤裸な信仰で通りつつ、神のみ旨の実現を願うことが祈りです」

出版を手伝った新井神父は、次のように話した。「弟子に当たる自分がやらないといけないと思いましたが、奥村神父さんは仏教との対話で有名ですが、ご本人はキリストがいかなる宗教を超えて素晴らしい存在だと言っている。冒頭の歌のたとえで、『月』はキリストなのです。しかし、これを一つの文章として強調して書いたものがないのです。だから、宗教多元論だと誤解される時があるので

奥村神父と同様、新井神父も仏教とのかかわりが深い。「奥村神父さんのような幅の広い人がいてこそ、いろんな人を受け入れる。私は有難かつたと思います」

発刊に当たり奥村神父は、「私は祈りを杖として、キリストを探す旅を続けてまいりました。その旅路の実りが今回の選集となりました」と述べる。選集はテーマごとに全部で九巻。三月に第一巻『慈悲と隣人愛』が刊行されている。

特集 キリスト教と日本の霊性、芸術

「無」になって神に近づく

「分け登る麓(ふもと)の道は多けれど同じ高嶺の月を見るかな」。男子跣足カルメル修道会司祭で、キリスト教の霊性と東洋の霊性双方を長年研究してきた奥村一郎神父(83)が、これまでの論文など未発表のものを中心にとまとめ、オリエンズ宗教研究所より全九巻の選集を出版する。冒頭の歌はその序にある。奥村神父に今回の選集とこれまでの歩みについて尋ね、発刊を補佐した同会の新井延和神父(54)にも話を聞いた。



奥村一郎神父

カルメル会

奥村一郎神父

キリストの素晴らしさを語っている部分を読んでほしいと、奥村神父は話す。「特に、関係におけるキリストの在り方を書いている部分を読んでいただきたい。これは、仏教を経てキリストに出会った私の霊性の基調にあるものです」

禅の向こうにキリストを見てきた奥村神父は以前、ある教区で黙想指導したとき、当地の司教から「いい話だったけれど、キリストが少しも出てこなかった」と言われたことがある。

「司教代理の神父様が『最初から最後までキリストについて話していただかないか』と言ってくださりました。人によって受け取り方がずいぶん違うものだと教えられました。いかなるものをも超えて素晴らしい、絶対的超越的なキリストを書きたいと、私はいつも心がけてきました。これを読み取っていただきたいものです」

本当に言いたいこと

選集を出すことになったきっかけは、奥村神父が二〇〇二年、オリエンズ宗教研究所が発行する『福音宣教』誌に連載記事を書いたこと。「思えば私は、歌は下手だし、料理など実際的なことも苦手で…。それで書くことに専念してきまし

カルメル会から

七年ぶりに新司祭が誕生

3月24日(土)の午後、上野毛修道院の聖堂において、ペトロ岡田武夫大司教の司式のもと、私たち跣足カルメル修道会から七年ぶりに、新司祭が誕生いたしました。新司祭、アウグスティヌス今泉健神父のプロフィールを、上野毛教会報に載った本人の言葉をもって、ご紹介致します。叙階後の派遣先は、上野毛修道院です。神に感謝。

1971年横浜市出身。1992年横浜教区二俣川教会にて受洗。

1996年カルメル会入会。2001年初誓願宣立。2005年荘厳誓願宣立。

2007年聖アントニオ神学校卒業。

◎ カルメル会との出会い

受洗直後、色々なキリスト教関係の教えに関心を持ちました。その頃、上野毛でやっていた四旬節講話に来たのがカルメル会との初めての出会いだったと言えるかもしれません。…その後、一年ほどして、青年黙想会のことを広告で知り、再びやって来ました。…その半年後、再び青年黙想会にやってきました。この時は明らかに、召命について話し合いたいと思っていました。「カルメルへ」とは具体的に考えていませんでした。…その後も時々上野毛を訪れたのですが、神父様が熱心に私の曖昧な思いに耳を傾けてくださいました。そのことが、結局カルメルとの絆を深めることになったと思います。…そのような識別を、会社員をしながら二年ぐらい続け、カルメル会に入りました。24歳でした。しかし、自分の中にまだ克服できない課題があったのです。それが、修練期を終える頃、膿のように噴き出してきて、結局会を去ることになったのです。本当に辛い体験でしたが、必要不可欠なことでした。

その後は、ちゃんとしたキリスト信者になることを目指して社会で働きました。召命については、しだいに、「神さまはもう私を呼んでいらっしやらないのだろう。あれは私の大それた考えだったのだ」と思うようになりました。しかし、幸い、カルメル会の神父様との絆は細々とですが保つことができました。それが、時が満ちた時に道を開く伏線となったのです。会を出て二年半、新しい仕事も軌道に乗り始めていた頃、突然、私さえ望むならもう一度カルメル会に入れてもらえるチャンスがやってきたのです。新しい仕事や生活に関する責任上、はじめはとても戸惑いましたが、突如蘇ってきたカルメル会に対する思いを断ち切ることができず、数週間の後、再入会を決断させていただきました。本当に不思議な体験でした。神の手が働いたものと信じています。その後、今日に至るまでは本当に恵みの日々だったと思います。神さまの御旨でない限り、自ら会をでようなどとは一度も思いませんでした。

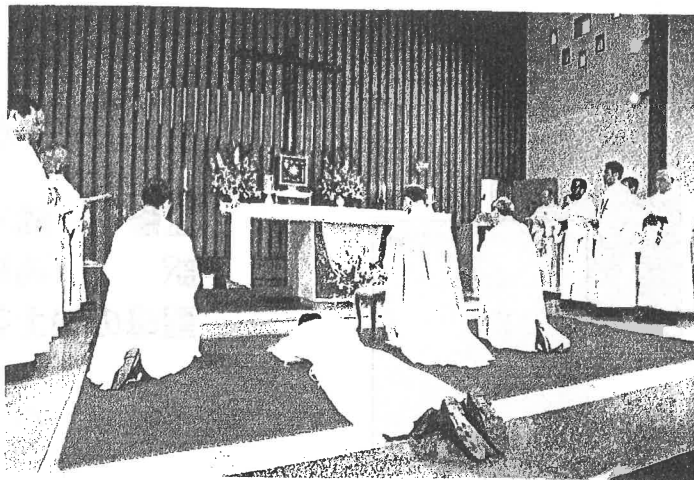
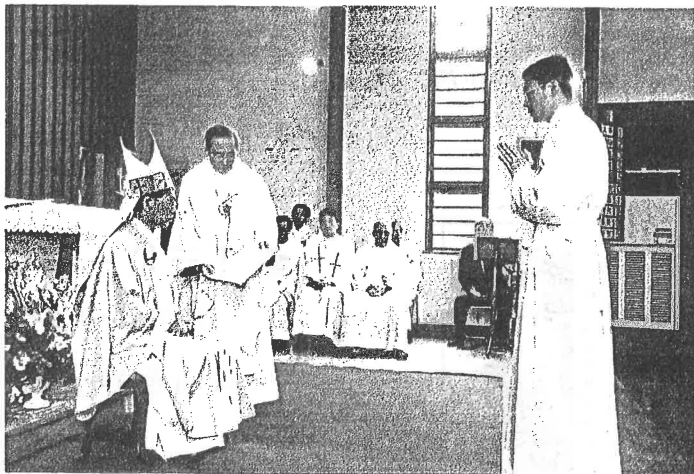
◎ 子供の頃の思い出

兄弟は三人。私が長男で三つ下の妹と八つ下の弟がいます。妹とは、通常仲良しで

したが、時々喧嘩もしました。赤ん坊の頃から面倒を見た弟からは兄としての優しさを育む機会が与えられたような気がいたします。もちろん、どちらも大切な、愛する兄弟です。またある時、群馬の田舎で、たくさん集まっている親戚の中のある伯父から「健は坊主（＝僧侶）に向いている」と言われたことがあります。「そんなの全然興味がない」と思っていたのですが、二十年以上の後、こういうかたちで実現するとは思ってもありませんでした。

◎ 趣味・特技

現在、趣味らしい趣味はほとんどありません。強いて言えば「ウォーキング」といったところです。修道院に入る前は大きなオートバイに乗って、よく湘南や伊豆、箱根の風を楽しみに行っていました。その他には、以前会社の人とよく湖にブラックバスなどを釣りに行っていました。ピアノやギターを習ったこともありましたが、私には向かなかったようです。



新刊紹介

◆ 「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

(三位一体のエリザベット帰天百周年記念出版)

伊従信子著・聖母文庫・¥525

総頁196



◆ 「祈りの道」・「いのちの道」

写真と文 伊従信子・サンパウロ・¥840・総頁各48

日々の生活に潤いをもたらす、

珠玉の言葉と写真を集めた2冊



● 「三位一体のエリザベット」

— 神は私のうちに 私は神のうちに —

菊地多嘉子著・ドンボスコ・¥525

Sr.菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベットの靈性の美しさを記す。

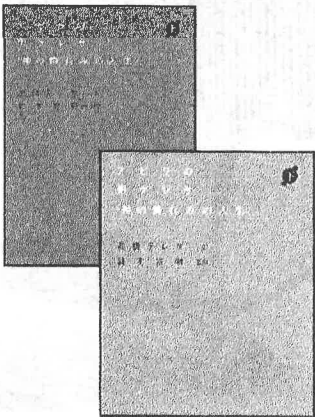
● 「神の憐れみの人生」(上・下)

監修 鈴木宣明

訳 高橋テレサ

聖母の騎士社・上下各巻 ¥840

カルメル会・アビラの聖テレサに関する新刊本。



投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどを B5 で 2 枚前後に簡単にまとめて送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

投稿規程

- * 締め切り：原則的に**毎月10日まで**
- * 原稿サイズ：**B5** 左右の余白：**15mm**
- * 原稿はできる限り**ワープロかパソコン**でおねがいします。
- * E-mail での投稿は、添付ファイルで、seminary@carmel-monastery.jp宛てにお願いします。
- * 「心の泉」のコーナーについては、小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
- * 寄稿連絡は、九里^{くのり} 彰神父宛にお願いいたします。
〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院
Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

- * 「霊性センターニュース」の《カルメル会の企画案内》の部分は HP でも御覧になれます。
<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>
- * 「霊性センターニュース」をご希望の方は、
下記まで、郵送ご希望の月数文×220円を現金で送ってください。
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会上野毛修道院
「霊性センターニュース事務局」

献金へのお願い

「霊性センターニュース」は現在、ご希望の方へ無料で配付しております。コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル霊性センターニュース

通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



編集後記

先日、富士五湖方面へ出かける機会があった。東京は桜も散り、新芽が芽吹き始め、春がすでにやってきたという感じであったが、そこはまだ桜もつぼみの冬の状態であった。そこでさらに風穴や氷穴の中を歩いたのだから、——洞窟の中は日中でも零度——、ずっといると体を冷やして風邪をひきそうになった。

それにしても都会を離れて、自然の中を散策していると、普段忙しくしている自分が妙に滑稽に見えてくる。悠久の大自然が造り出した地形は、作っては壊し、作っては壊して、毎年変貌してゆく都会の町並みとは異なった時をきざんでいる。

永遠なるものへの憧れは、人間の心から消えることはないのであろうが、自然から切り離された都会の生活は、あまりにもこの世的な事柄の中へ埋没してしまう危険性をはらんでいるように思う。

とはいえ、都会の中にも小さな自然はある。その自然に静かに耳を傾け、神さまの心の鼓動を聞き取ってゆきたいものである。小さい時、脳性麻痺となり、一生、自由に動くことも話すこともできなかった水野源三さんの詩は、そのような感性で綴られている。

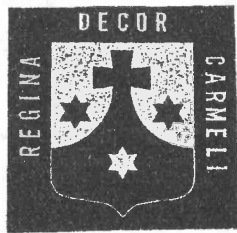
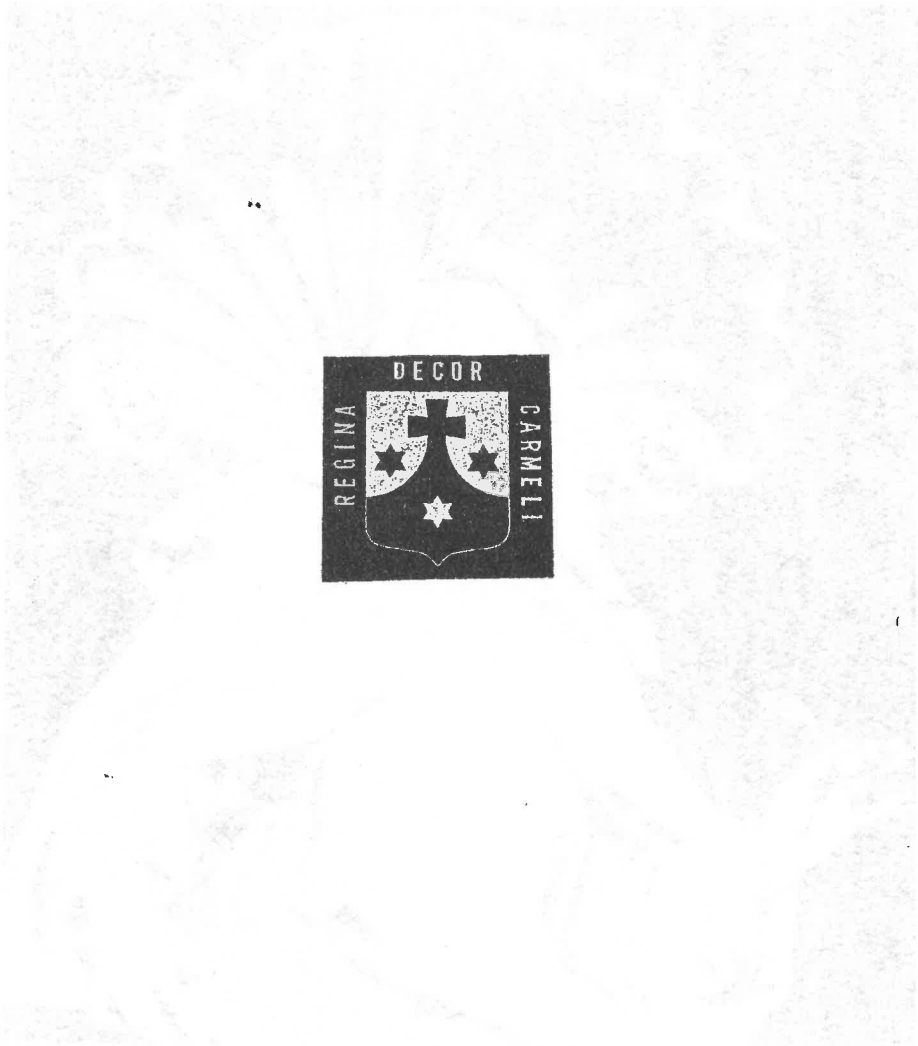
私が臥している
六畳のこの部屋にも
神さまの恵みの春がある

弟がとってきた落のとう
姪達のつんできたイヌフグリ
いもうと
義妹の生けたあんずの花

(P.九里)



Vaticano. Basilica di S. Pietro. La monumentale statua di santa Teresa "Madre degli spirituali", dello scultore F. Della Valle.



REGINA CARMELLI DECOR